

# 言語少数派高校生は協働的読解活動に どう参加するか

— 言語能力差の有無に焦点を当てて —

蘇 位 静

学位取得年月：平成 20 年 3 月  
取得学位名：人文科学修士  
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】 言語少数派高校生、言語能力の差、協働的読解活動、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ

## 【要旨】

本研究は、言語少数派高校生ペアの言語能力の差に着目し、協働的読解活動を行う際に、①各ペア間の言語能力の差の有無が、それぞれどのような参加の仕方が形成されるか、②参加の仕方の違いは当事者による活動の評価にどのような影響を与えるか、について当事者の内的視点から少数事例を通して検討することを目的とした。

SCQRM (スクラム) をメタ理論とした修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析した結果、言語能力に差がないペアでは、【相互支援的関係な参加】の仕方が形成された。そのことが、【協働的読解活動に対するプラス評価】につながった。一方、言語能力に差があるペアでは、【課題をこなすだけの参加】となり、そのことが【協働的読解活動に対するマイナス評価】につながった。

(す う え い ち ん)

# 多言語多文化共生日本語教育実習における 実習生の外国人児童生徒教育観の変容

宝田 恵利

学位取得年月：平成 20 年 3 月  
取得学位名：人文科学修士  
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】 教員養成、外国人児童生徒、教育観、PAC 分析

## 【要旨】

本研究は、多言語多文化を尊重する教育の達成を目指し、その実現を担う教員の養成についての検討を目的とし、実践例として多言語多文化日本語教育実習を受講した実習生の外国人児童生徒教育観の変容を PAC 分析で明らかにした。その結果、①日本人児童生徒と同一の思考と行動を目指す「同化教育」から、それぞれの違いを認めニーズに合わせて教育を行う「多文化教育」へ、②専門教員による「個別対応」から、受け入れ側の体制作りも含めた「環境作り」へ、③異文化紹介やイベント的交流会等の「知識獲得型国際理解教育」の肯定から、現実の教室での言語文化を異にする者間の摩擦や誤解を検討する「問題提起型国際理解教育」の肯定へという 3 点の変容を特徴付けることができた。

(たからだ えり)